

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アイテム演習 帽子	各部の名称、形と素材の種類、頭蓋型や採寸方法など帽子の一般知識を習得し、素材の特徴に合ったデザインの発想、トリミング(装飾)など、全体のバランスを考える。 ブレード、夏物帽体、冬物帽体、コットン芯など帽子専門の材料の特徴を理解し、木型や専門道具を使用して制作。 基礎作図・基礎作図からの展開方法、仮縫い、縫製方法、生地や芯の扱い方を理解し布帛の帽子を制作。	1・ 通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 ジュエリー	・ ジュエリー・アクセサリ商品の基礎知識の習得。 ・ ジュエリー制作における金属素材の扱いと基礎的技法の習得。 ・ ジュエリー制作における用具の扱い方を制作実習にて習得する。 ・ ジュエリー・アクセサリ商品取り扱い店舗(高級店舗、低価格店舗、繁盛店舗、注目店舗)における市場調査による商品研究。	1・ 通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 バッグ	バッグの基礎知識と製作技術および皮革素材の基礎技法の習得。作品は①布と革の曲げまちバッグ、②基礎縫い制作。バックル、ナスカン付きショルダーベルト、カシメ、ハトメ、ホック付きプレスレット、ファスナー付きポーチ、ファスナーポケット部分縫い③縫い返しバッグ。デザイン、型出し、型紙、裁断、革すき、縫製、仕上げ、発表。作品製作以外に、バッグの機能・構造についての講義やショッピングリサーチレポート等。	1・ 通年	120	4		○		○		○		
○			アイテム演習 シューズ	・ 基本デザイン(モカシン・パンプス)の制作及び設計技術の基礎を習得する。 ・ 用具、製靴用機械の取扱い方法を実習にて習得する ・ 履物の起源及び歴史、靴の構造、足の構造の概論を学ぶ	1・ 通年	120	4		○		○		○		
○			自由研究 I	各課題や個人の自由実習。通常授業以外の制作をすることによる、各個人のレベルアップ。 ・ ブランド研究(帽子・ジュエリー・バッグ・シューズ等のブランド、企業の研究) ・ 文化祭バザー作品のグループ制作 ・ 各種コンテストの参加 ・ 美術館、博物館等の見学	1・ 通年	60	2			○	○	○	○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ハンディクラフトI	各種のクラフトテクニックを、エンブroidリーと布の加工に大別し、基礎的なテクニックを幅広く学習する。 特に、帽子・バッグ・シューズ・アクセサリ等のグッズ制作に、応用することをイメージしながら実習させる。 併せて、学習したテクニックが使われている実際の商品などの資料を集め、ブックの形式で完成させる。 それにより、テクニックだけにとらわれない応用性を身につけさせる。	1・通年	60	2			○	○		○		○
○			造形演習	ファッショングッズの各専門分野において必要とされる造形感覚、審美眼の育成と造形・デザインの展開とその方法論関連業界 100.0% (株)アダストリア、(株)TOKYO BASE、(株)ビギ、(株)マッシュホールディングス、(株)マルジェラジャパン等の享受を教育目標とする。一般的な造形・デザインに対しての基本的理解と造形能力を高めるために重要な理論的解釈、また、造形言語と呼ばれる表現要素の認識とその利用方法の理解と探求を通じ、独自の表現に昇華する事を目標とする。	1・通年	60	2			○	○		○		
○			色彩論・演習	ファッション分野のクリエイションで色彩を活用することを想定し、基本的な配色方法を中心に色彩の基礎を学習する。	1・通年	60	2	○		△	○		○		
○			デッサンI	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	60	2			○	○		○		
○			ファッションデザイン画	・衣服のイメージ、バランスを読み取る力・表現する力を習得する ・衣服の構造、縫製を理解しデザイン画として表現し共有することができる ・ファッショングッズを引き立てる着装画としての表現力	1・通年	60	2			○	○		○		
○			グラフィックワークI	Photoshop・Illustrator初心者を対象とし、Photoshopでは、画像の切り抜き・合成ができるようになることを目標とする。 Illustratorでは、マップのレイアウトデザインができるようになることを目標とする。	1・後期	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程ファッショングッズ基礎科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			服飾造形	服飾造形としての一般知識、原型の理解、縫製の基礎を理解させる。 シャツ・ブラウスの衣服製作を通して、衣服構造を理解し、ファッショングッズとのコーディネートも関連させ指導する。 服飾造形の基礎、シャツ・ブラウスの基礎知識、縫製	1・ 前期	60	2			○	○		○		
○			服装解剖学	人体の形態や構造を解剖学的に認識させ、人体を機能的で美的に表現できるファッショングッズ造りを目的とする。 全身のプロポーションを理解し、ファッショングッズ製作に生かすための計測法の説明を行い、機能面からデザイン発想まで結びつけられるように学習させる。	1・ 後期	30	1	○		△	○		○		
○			素材論	繊維素材(各種繊維・糸・布地・染色加工)の種類・性質について基礎的な知識を習得させる。さらに繊維素材製品の展開などにも関連させ知識を深めることを教育の目標とする。	1・ 後期	30	1	○			○		○		
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・ 後期	30	1	○				○		○	
○			クリエイション演習	デザインの基本を踏まえながら、学生の創造力・発想力を豊かにしていく。年間を通して平面～立体～空間と、考える領域を変化させて授業を展開していく。個人作業とグループワークを織り交ぜ、現代社会での重要性が増しているコミュニケーション能力も鍛えていく。	1・ 通年	30	1		○		○		○		
○			特別講義 I	専門科目、通常科目の他に学外の専門講師による講義や、他分野の講師による講義を通じ、幅広い知識を得て視野を広げると同時に、個々の目的とする職能を確認し位置づける。	1・ 通年	60	2	○			○		○		

○		校外研修 I	<p>都会生活から離れた「自然の中」における野外活動、体育活動ほか諸活動など団体生活の体験を通じ、指導力や協調の精神を養い、個人相互、クラス間の親睦を深めることを目的とする。</p> <p>規律を強調がいかに人間関係に潤いを与え、楽しい物であるかを知り、一人一人が規律正しい健康的な団体生活を送れるよう心がけ、相互理解を深める。</p>	1・前期	30	1			○	○	○			
合計			18科目	1140単位時間(38単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1 学年の学期区分	前・後期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合 については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			帽子 デザイン I	基礎で学んだ技法を深く理解し、高度な技術を学ぶ。各種材料の特性を活かしたデザインと表現方法について研究し、完成度の高い作品制作を目指す。	2・通年	60	2			○	○		○		
○			帽子 パターン I	1 布帛・キャスケット — デザイン・パターン・製作実技 2 ブレード — デザイン・製作実技 3 奈良ショー作品 — デザイン・製作実技 4 バザー作品 — デザイン・製作実技 5 立体裁断・演習 — パターン	2・通年	60	2			○	○		○		
○			帽子 制作実技 I A	6 クロスもの — デザイン・パターン・製作実技 7 (文化祭ショー作品 — デザイン・製作実技)	2・前期	60	2			○	○		○		
○			帽子 制作実技 I B	8 カジュアルハット (立体裁断) — デザイン・パターン・製作実技 9 修了作品・ウェディング — デザイン製作実技	2・後期	90	3			○	○		○		
○			ジュエリーデザイン I	・ ジュエリー・アクセサリーに関する情報と一般知識の習得 ・ ジュエリーにおける金属加工のための技法、及び技術の習得 ・ アクセサリー制作における各種素材の研究と加工技術の習得 ・ ジュエリー・アクセサリー商品取り扱い店舗における市場調査によるショッブ研究、定点観測と商品計画	2・通年	60	2			○	○		○		
○			ジュエリー制作実技 I A		2・前期	90	3			○	○		○		
○			ジュエリー制作実技 I B		2・後期	120	4			○	○		○		
○			自由研究 II	各教科目を基に、さらに高度な技術と創造性を磨く為に、個人テーマにより研究する。 ◆各種コンテスト ◆コラボレーション企画への参加 ◆美術館、博物館等の見学 ◆個人テーマによる作品制作	2・通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アートフラワー	各課題ごとに各種素材の把握と扱い、用具の自由な使い方などを広く盛り込み、アートフラワーの基本的な知識と技法を実習により習得。専門分野に活用できるレベルを目指す。簡単なことながらも工夫次第で様々なモノ作りの場に於いて展開していけるような応用力、マニュアルもさることながら、発想豊かさを大切に楽しんで、又心を動かしつつ創作できる力がついていくよう指導する。	2・前期	30	1			○	○		○		
○			ハンディクラフトⅡ	ハンディクラフトⅠで学習したテクニックの応用。エンブroidアリーと布の加工の他に、レースのテクニックも含め、より高度で広範囲なテクニックの習得を目指す。また、種々のマテリアルも発展として使用していく。帽子・ジュエリーへの応用力など、さらにクリエイティブな力を養うことを目標とする。	2・通年	60	2			○	○		○	○	
○			染色演習	帽子・ジュエリーデザイン制作の新たな発想の手がかりとなるよう、何種類かの染色・加工法を抜粋し指導する。その基本的な知識と技法を実習をとおして習得させる。	2・前期	30	1		○		○		○		
○			ファッションマーケティング	マーケティングの基本を学び、市場の細分化と特徴を理解する。マーケティングのプロセスにそって、市場に適合したブランド設計を行い、目的を実現させるための戦略について学ぶ。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			デッサンⅡ	静物デッサン・石膏デッサン等を通して物当りの原理・性質を理解し、描写力を養うことにより創造力の基底とする。	2・前期	30	1			○	○		○		
○			西洋服装史	古代から現代までの時代背景や美術をふまえ、服飾やバック、鞆、帽子、アクセサリーのデザインの流れについて学ぶ。また20世紀以降は各時代のデザイン様式、映画、写真、音楽の歴史変遷にも触れ、なおいっそうのファッションへの理解を深める。	2・後期	30	1	○			○		○		

○			グラフィックワークⅡ	グラフィックワークⅠの修了者を対象として、コンピューター操作の更なるスキルアップを図る。Photoshopでは、連続柄の作成・デザイン画の着色ができることを目標とする。Illustratorでは、ペンツールでオリジナルデザインが描けるようになることを目標とする。	2・通年	60	2				○	○	○				
---	--	--	------------	---	------	----	---	--	--	--	---	---	---	--	--	--	--

(別紙様式4)

(3/7)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 2019年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任			
○			ファッショングッズデザイン画Ⅰ	グッズに対するフォルムの表現力を構造から視野を深め、帽子デザインやアクセサリーなどのアイディアイメージをデザイン画に展開し確実な習得を目指す。	2・通年	60	2			○	○		○				
○			造形デザイン	ファッション工芸専門課程の各分野において必要とされる立体造形に関する感覚を養成し、広く様々な造形経験を通じて、造形的なセンスと構成力を研鑽することが教育目標となる。一般的な造形・デザインから発展した様々な造形行為への理解を基調に、追体験と実験的製作を通して個人の主張する表現が遂行出来ることを目標とする。	2・通年	60	2			○	○		○				
○			キャリア開発(コミュニケーション)	将来を考えるテーマについて、「聴く」「書く」「話す」などのコミュニケーションスキル・プレゼンテーションスキルを講義+実習を通して身につけさせる。	2・前期	30	1			○	○		○				
○			キャリア開発(就職対策)	学生が志望する就職先に内定するために必要な「就職力」を講義+実習を通して身につけさせる。	2・後期	30	1			○	○		○				
○			特別講義Ⅱ	多方面にわたる講師の講義を通して、広い視野と高い専門性、豊かな人間性について学ぶ。	2・通年	60	2			○	○						○
○			校外研修Ⅱ	企業訪問、工場見学、美術工芸品の見学や歴史的文化にふれることにより、感性を磨き豊かな創造性と深い知識を養う。	2・前期	30	1			○	○						○

			○	インターン シップ ^a	企業研修を通して、実践の場から業界の仕事の内容を認識するとともに、学校教育では授業できない実務を学ぶ。 また、社会人としてのマナーを身につけ、就職に対する意識の向上をはかる。	2・後期	30	1				○	○	○			
合計				21科目		1170単位時間(39単位)											

(別紙様式4)

(4/7)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 2019年度																	
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任			
	○		選択 帽子 デザインⅡ	各テーマの目的に合ったデザイン発想と展開。デザインに合ったパターンの展開方法と表現技法を研究し、理解を深めてより完成度の高い作品制作を目指す。 1 デザインの展開と縫製技法の復習 — デザイン・パターン・制作実技	3・通年	60	2			○	○		○				
	○		選択 帽子 パターンⅡ	2 布帛・パターンの応用展開 — デザイン・パターン・制作実技 3 チップ(木型に変わる元型) — デザイン・制作実技 4 チップ使用の帽子 — デザイン・制作実技	3・通年	60	2			○	○		○				
	○		選択 帽子 制作実技ⅡA	6 <コーディネートデザインⅠ：奈良ショー作品 — デザイン・制作実技> (ブレードと同時進行) 7 マイブランドの商品サンプル — デザイン・パターン・制作実技 (グッズマーチャンダイジングと連動) 8 メンズハット — 制作実技 9 文化祭・バザー作品 — デザイン・パターン・制作実技	3・前期	180	6			○	○		○				
	○		選択 帽子 制作実技ⅡB	10 <コーディネートデザインⅡ：文化祭Fショー作品 — デザイン・制作実技> 11 卒業制作 — デザイン・パターン・制作実技	3・後期	150	5			○	○		○				
	○		レザーグッズ	ファッション小物を総合的に企画デザインするために、各種皮革素材の特性と製作技法についての知識を習得する。 また、手袋の基本の縫製方法を学び、各自のデザインに合わせて制作する。	3・通年	60	2			○	○		○				

○	○	○	選択 ジュエリーデ ザインⅡ	ジュエリー、アクセサリーにおけるより深い知識の習得を目指し、企業で即戦力として活躍できるスキルを目標とする。また、「作品創作」と「商品製作」の違いを理解した上で、デザイナーとして必要な商品企画力とプレゼンテーション力を養う。 1. ジュエリー制作における、道具を作る 2. ジュエリーの歴史 3. ファッションコーディネートⅠ 4. バザー作品 デザイン 5. ファッションコーディネートⅡ 6. コスチュームジュエリーへのアプローチ 7. 卒業制作 店舗市場調査	3・ 通 年	60	2				○	○	○					
○	○	○	選択 ジュエリー 制作実技Ⅱa		3・ 前 期	120	4					○	○	○				
○	○	○	選択 ジュエリー 制作実技Ⅱb		3・ 後 期	180	6					○	○	○				

(別紙様式4)

(5/7)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 2019年度																		
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携			
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任				
	○		選択 ジュエリー素 材論	ジュエリー・アクセサリーで使用される各種素材の知識、理解を深める。各素材の専門企業等による特別講義、見学なども取り入れ、より専門的な知識を習得する。	3・ 通 年	30	1	○		○	○		○					
	○		選択 ジュエリー商 品概論	ジュエリー・アクセサリー商品の知識を深め、業界や流通の仕組みを理解する。専門企業等の見学などを取り入れ、より専門的な知識を習得する。	3・ 通 年	30	1	○			○		○					
	○		選択 エナメルワー ク	七宝技術（有線七宝）の習得とともに、色彩構成の学習をする。金属加工の技法、及び技術の習得（七宝制作の胎作）。金属とガラス素材の組合せによる表現方法。	3・ 前 期	30	1			○	○		○					
	○		ジュエリーC AD	ジュエリー・アクセサリーのデザインにおいて必須となった3D-CADでのデザインを3DCADソフト『ライノセラス』を使用し、その基本技術を習得する。また仕事の現場での基本的な流れを知るため、CADデータ作成の前段階である指示書の作成も行う。	3・ 通 年	60	2			○	○		○					

○		メタルワーク	ファッションと親和性の高いスワロフスキー・クリスタルを使ったコスチュームジュエリーをデザイン、製作するための知識と基礎的な「よせもの」技術を、座学と実技により指導。 ファッショングッズ分野においても活用できる、デザイン企画やデザイン手法を習得。また、製作現場とのコミュニケーションを図る事が出来る程度の、基礎的知識と技術の体得。	3・前期	30	1	○	△	○	○			
○		コスチュームアクセサリー	創造性の追及と制作技法の研究から、オリジナルなトータルデザインと新たなアイテムの提案に取り組み、完成度を高めることを目標とする。 各自の課題制作に加え、産学コラボレーション企画、各種コンテスト作品への応募や、文化祭ファッションショーの作品制作にも取り組む。卒業期には卒業研究・創作や帽子、ジュエリーと連動して卒業制作に取り組む。	3・通年	120	4			○	○		○	
○		グッズマーチャンダイジング	1. ファッション・マーチャンダイジング実務について指導を行い、シーズンMDの計画背景に基づいたプランニング実習を行い、企業で企画プランナー&デザイナーを目指す学生の為の教育を行う。 2. ファッションブランドのプランニング過程を実践。現実に即したブランドの意思決定と立案計画、そして具体的な商品企画を行い、プレゼンテーションを実施。個々の能力向上を目指す。	3・通年	120	4			○	○		○	

(別紙様式4)

(6/7)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		選択 ファッション グッズデザイン 画Ⅱ	グッズデザインワークの上で即戦力として使えるデザイン画の習得。 就職活動に活用できるポートフォリオ(作品集)作成、及び創作デザインの企画構成力を目指す。	3・通年	60	2			○	○		○		
	○		選択 レンドリング	ジュエリーなどのデザイン表現を、個々それぞれの特性を引き出す創作デザイン考案とデザインワークの活かに。就職活動に活用できるポートフォリオ作成。企画デザイン力を目指す。	3・通年	60	2			○	○		○		

○			デザインディレクション	1つのパーツから繋がり様々な形に変化する事は生命が細胞の集まりだという事と同じである。 自分の好きな形を1つ決める。幾何学的でクールな形でも有機的な形でもOK! サイズや厚み素材、色は自由。 その形だけを使ってバッグ、靴、帽子、アクセサリーを作る。余裕があれば服まで制作も構わない。 それらの作品を記録し自分のブランドとして冊子を作り、展示方法を考えていく。	3・通年	60	2				○	○	○			
○			ビジュアルプレゼンテーション	VPの社会的な役割を理解し、コンセプトやイメージに基づいたプランニング～実行までの作業を行う。 「作品」を「商品」として捉えることでよりビジネスに近い提案方法を実践する。 ピンワークのテクニックを学びVPや作品作りに活かす。	3・前期	30	1				○	○	○			
		○	自由選択英会話	初歩の英文法を学習している学生対象のコース。ファッション関係のトピックを中心に英語表現に慣れ、初歩の会話の運用ができるようになる事を目指す。	3・通年	60	2				○	○	○			

(別紙様式4)

(7/7)

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 帽子・ジュエリーデザイン科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			特別講義Ⅲ	ファッション全般に渡る、トレンド情報やプロダクトデザイン。また、グッズに関わるクリエイターや企業デザイナーの仕事。特殊材料やその活用方法などの、多方面にわたる講師による講義や演習を通し、専門科目のより一層の充実を図ることを目標とする。	3・通年	30	1	○			○			○	
		○	インターンシップb	企業研修を通して、実践の場から業界の仕事を確認するとともに、学校教育では体験できない実務を学ぶ。また、社会人としてのマナーを身につけ、就職に対する意識の向上とともに、就職に結びつける機会にする。 帽子やジュエリーの企業を中心に、1～2週間程度の期間、実務作業の補助（デザイン、製作、営業、生産管理など）や工場見学等、企業の受け入れ可能な内容を研修する。	3・後期	30	1				○	○		○	

○	卒業研究・創作	3年間の集大成として、各自が研究テーマを設定し企画デザイン創作する。また、展示発表を通して企画、運営方法とチームワークの重要性を学ぶことを目標とする。選択科目の帽子とジュエリーを中心にトータルコーディネートしたグッズの総合企画制作を行う。作品は4点以上。又は、それに見合う作品を制作。バッグデザイン科、シューズデザイン科と共に展示発表の企画、運営を行う。	3・後期	120	4				○	○			○
合計		13～15科目	1080単位時間(36単位)										
総合計		52～56科目	3390単位時間(113単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1学年の学期区分	前・後期	
	1学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。